



【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者に来校していただいたりして、発達気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

5月31日現在の相談依頼の件数(外部支援)

対象 件数	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	特別支援 学校	その他	計
	35件	58件	4件	5件	0件	5件	107件

(その他は関係機関からの相談)

その他 6月15日 榛東村内の小学校の校内研修にて講演予定
9月14日 前橋市内の小学校に校内研修にて講演予定

専門アドバイザーの仕事を紹介します。



小学校の相談では1クラスの中に気になるお子さんが複数おり、学級全体が落ち着かないという内容を受けることがよくあります。

担任の先生方はとても熱心に取り組んでいて、4・5月の学級作りではクラスのルール作りを徹底して子ども達に伝えている場面を多く見ます。

クラスのルールは大切で、それがないと学級が成り立たなくなってしまうのですが、どのお子さんも同じように評価するのではなく、特別の配慮が必要なお子さんには少し評価の基準を下げる必要があると考えています。

ある小学校の低学年のクラスを訪問しました。

学級経営には自信のある先生で、授業が始まる時の姿勢や机の上に置く筆記用具の位置、拳手の仕方など丁寧に指示を出し、やり直しも多くさせていました。ほとんどのお子さんは指示どおりにできていましたが、相談にあがっていた複数のお子さんは衝動性が高く、一人ができたと思ったら、他のお子さんが注意を受けるという状態で、なかなか授業が始まりませんでした。そのため、授業が進まず、大勢の他児にとっては待ち時間が長いだけでなく、対象児に対する注意を多く聞くことになって、授業に集中できない様子が見られました。

対象児については絶対評価を取り入れ、ある程度できたら褒めて、授業を進める方が得策です。昨年、同じようなクラスの相談を受けました。はじめは教師がノートを出してあげたり、教科書の該当ページを開けてあげたりしましたが、授業を進める中で対象児を含めた子ども達を褒めるようにしてもらったところ、勉強が分かるようになり、学習態度も良くなってきました。そのクラスは算数の最初は時間を計って百ます計算をしていましたが、対象児の4名とも「俺、満点とるから」と言ってスタートを待つまでになりました。

何回も「教科書出して」というより、教科書を出してあげて授業に集中させ、分かるようになると自分で教科書を出すようになる子も多くいます。

子どもにどこまで求めるかというのは、子どもの実態によって異なりますね。

お知らせ

- ①夏休みに特別支援教育の講演会を開催します。

日時：7月27日（月）9：40～11：00（受付9：15～）

講師：NPO法人 リンケージ 中澤由梨先生

演題：「就労から見える発達障害の子どもの特徴と
学校教育での支援内容」

場所：しろがね特別支援学校

※中澤先生は発達障害があるお子さん（知的障害のないお子さん）の就労支援に携わっています。

高校生になってから就労を考えるのでは遅いです。小・中学生の段階で身につけておくべき内容について、一緒に考えてみませんか。

通常学級で気になるお子さんを担任している先生、特別支援教育コーディネーターの先生、特別支援学級の先生、参考になると思いますので、是非お越しください

- ②文科省の事業である、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の同行派遣が今年度も実施されます。興味のある先生はお問い合わせください。

お子さんの指導で相談したいことがありましたら、
障害の有無に関係なくお気軽にご連絡ください。

群馬県立しろがね特別支援学校

専門アドバイザー

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113